

広葉樹コンテナ苗生産技術の検討 (R3~5)

国補: 林業普及情報活動システム化(林業試験研究情報調査)

久保 健・小島 靖

1. はじめに

令和2年4月に「**奈良県森林環境の維持向上により森林と人との恒久的な共生を図る条例**」が施行され、これに基づき令和3年度から開始される「混交林誘導整備事業」では、「地域に適応した高木種」としてケヤキ、ミズナラ、トチノキ、カエデ類等が示されているが、これらのコンテナ苗育苗にかかる知見は未だ少ない。本課題においては、これまで林業樹種(スギ、ヒノキ)について蓄積した技術を基に、導入対象となる広葉樹にかかるそれぞれの育苗特性を明らかにし、そこで得られた知見を生産者に普及する。

令和4年度では、県内種苗生産者の広葉樹種苗の安定生産・供給を目的として、先進地(鳥取県八頭町)において生産状況調査を行い、広葉樹ポット苗生産方法に関する情報を収集するとともに、県内の広葉樹種子採取が可能な母樹の探索を行い生産事業者に対して情報を提供するとともに、山取りコンテナ苗(ムクノキ)の施肥試験を実施した。

2. 材料と方法

①先進地におけるコンテナ苗の生産技術の調査

広葉樹種苗の先進事例1箇所(鳥取県智頭町)について、①広葉樹苗生産に取り組んだ経緯、②長期に亘る広葉樹苗生産における課題、③種子採取と貯蔵方法等について調査した。

②広葉樹母樹の探索

令和4年度5・8・9月に、吉野郡4カ所(東吉野村杉谷、下北山村浦向~十津川村上葛川、上北山村西原(和佐又林道))、宇陀市1カ所(室生向瀨)、高取町1カ所(センター内)において、開花状況、着花状況、充実状況、実生芽生え等について、目視により調査した。

③山取採取稚苗にかかる施肥試験

上記母樹探索において採取した種苗のうちムクノキ(ニレ科)をMスターコンテナ化し苗高を平準化した2区に対して、緩効性粒状肥料(ジェイカムアグリ社、ハイコントロール085-180 N:P:O=10:18:15)をそれぞれ1g・2g与え、1成長期後の苗高を比較した

3. 結果と考察

①先進地におけるコンテナ苗の生産技術の調査

鳥取県智頭町: 30年間に亘り広葉樹育苗に取り組んでいる苗圃(鳥取県樹苗組合所属)を訪問して情報収集した。①広葉樹苗生産は行政(県)から林業種苗と併せて広葉樹に取り組むよう指導があり学習会・母樹探索から始めた、②林業種苗との両立、生産者全員が黒字経営を続けることが課題、③全ての種子を育苗箱で取り播きしているが近年の温暖化で初冬に発芽する例がある、等育苗にかかる情報を得た。

②広葉樹母樹の探索

上記調査地では、ウリハダカエデ・ミズナラ・イタヤカエデ、キハダ・ミズメ・オニグルミ・モチツツジ・コバノミツバツツジ、ムクノキ、コナラ、クヌギ、ヤマザクラ等について、結実を確認したが豊凶に差が見られ、充実種子が少ない傾向となった。令和4年は梅雨期の降水量が少なかったためと推測された。

③山取採取稚苗にかかる施肥試験

山取採取稚苗にかかる施肥・1成長期後の苗高成長は、1g施肥23.5cm、2g施肥30.7cmとなり、成長後の平均苗高は、1g施肥39.3cm、2g施肥48.1cmであった。

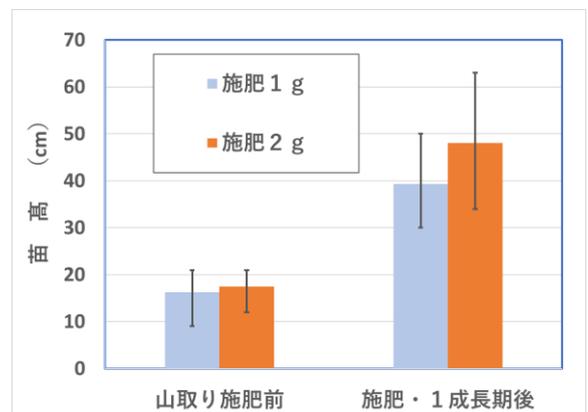


図 コンテナ化・施肥後の成長(ムクノキ)